

## Japanese Americans' View of Japan and Historical Awareness

Shigeru KOJIMA, Ronald SHINOMOTO

### 日系アメリカ人の対日観と歴史認識

小島 茂・Ronald SHINOMOTO

Review of Management and Information  
Vol.25, No.2, March 2013  
School of Management and Information  
University of Shizuoka, Japan

『経営と情報』  
第25巻 第2号(2013年3月)  
静岡県立大学・経営情報学部

## 誌上対談

### 日系アメリカ人の対日観と歴史認識

小島 茂(静岡県立大学経営情報イノベーション研究科教授)  
Ronald SHINOMOTO (Technical and Scientific Writer, USA)

解説：本稿は、「誌上対談：日系アメリカ人の対日観と民族アイデンティティ」の続編で、今回はとくに日系アメリカ人の歴史認識に焦点を当てた。先の戦争で、日本がしかけ諸外国に甚大な迷惑をかけたので贖罪し続けなければならないという自虐史観（戦後史観）に自縛されている日本と同様に、米国でも、日本軍が侵略したため米国はやむなく太平洋で日本と戦ったと日本の自虐史観を裏返した歴史認識をもっている。こうした歴史認識は中学、高校で教えられた知識に基づくもので、普通の日本人が生涯を通じて自虐史観を維持する傾向があるように、普通のアメリカ人も生涯維持する可能性が高い。そのため、日系米国人は、真珠湾攻撃記念日には外出を控えたり、歴史問題では、中国、韓国側について日本を批判する傾向が見られる。

しかしながら、戦前の多くの日本人は日本が追い詰められて戦わざるをえなくなったという事実を肌で知っており、その米国においても、太平洋戦争の真相は、フーバー元大統領をふくむ米国政府及び軍の関係者による数々の証言や著作によって、日本が侵略したというよりも米国によって計画的に戦争に引きずりこまれやむなく立ち上がったことが明らかになってきている。また、東南アジア諸国を欧米植民地から解放した第二次世界大戦における日本の役割も公平に評価されなければならない。こうした事実を伝え、実際それらの著作を読むと日系アメリカ人も歴史認識の間違いに気付く自信を取り戻す。そして日本により尊敬と愛着心を持ち、日本の心強い味方にもなる。

日本を独立自尊の国家とするために、日本国内で、日本人に対して自虐史観の自縛から解放する努力が欠かせないことは言うまでもないが、同様に、海外でもまずは日系アメリカ人の歴史認識を是正する努力も大切であり、それが可能であることが今回の誌上対談を通じて実証された。

なお、前回と同様、対談を視覚化するための肖像画およびプロフィール説明文(英文対談を読まなくても全体の流れがつかめるよう日本語で解説)は筆者の一人である小島が担当した。

#### 注：

(1) 共筆者のRonald Shinomoto氏は、米国在住の日系三世。カリフォルニア大学バークレー校博士(Ph.D.、化学)。現在は、科学技術ライターとして活躍している。

(2) 実際のやり取りは誌上対談に比べはるかに量が多く掲載した内容はやり取りの中から一部を抜粋して編集したもので、流れがスムーズでなかったり上記解説文が十分に包括しているわけでもない。また、本稿はあくまでもShinomoto氏とのやり取りを通じての日系米国人の対日観と歴史認識の話である。

(3) Henry Stokes氏の論文については「英訳のWeb資料館(Society for the Dissemination of Historical Fact)(史実を世界に発信する会)を参照。他にも貴重な資料が掲載されている。

(4) 本稿は筆者それぞれの個人的な見解であり、静岡県立大学経営情報学部および大学院経営情報イノベーション研究科は一切関与していない。

小島 茂（静岡県立大学経営情報イノベーション研究科教授）  
Ronald SHINOMOTO (Technical and Scientific Writer, USA)

### なぜアメリカは日米戦争を始めたのか？

小島：日本人もアメリカ人も「日米戦争（1941年～1945年）を始めたのは日本だった」と中学・高校で教えられています。しかしながら、戦前・戦中の日本人の多くは日本に戦争突入を強いたのは米国とくにルーズベルト大統領だったことを肌で知っていました。アメリカ人ジャーナリストのヘンリー・ストークス氏も「ペリー来航から真珠湾への道：なぜアメリカは対日戦争を始めたのか」（2012）という論考の中で、戦争を引き起こしたのはむしろ米国だったという主張をしています。氏も指摘するように、欧米の植民地主義国と日本との衝突は世界史的に不可避だったのです。日本はこの戦争に敗れたものの、多くのアジア諸国に希望をあたえ、戦中、戦後、これらの国々は欧米の宗主国からの独立を次々に成し遂げました。

**Shinomoto**：ストークス氏の書いていることの大部分は真実であると思います。アメリカが友好関係構築を装って日本を自国の目的のために利用しようと望んだという点にも同意します。実際、アメリカは世界支配のために日本の戦略的立地条件を利用しようと望んだのです。日本も自国の野望があり、それは日本がなぜ東アジアの大部分を侵略しインドを奪取する計画を持っていたのかという理由と重なりますが、このことは日本政府管理下のインドで使用されるはずだった通貨（私もその幾つかを保有しています）が示しています。インドには多くの日本支持者が存在していたので、日本はチャンドラ・ボースのようなインド軍部のリーダーの協力によって容易に同国を奪取できることを知っていました。他の多くのアジア諸国の独立と同様、皮肉にも、日本の敗戦がインドに



フランクリン・ルーズベルト  
(Franklin D. Roosevelt, 1882-1945)  
第32代米大統領。親中反日志向が強く、1937年、盧溝橋事件後、援蒋ルートを通じて蒋介石率いる国民党政権を支援。近衛首相のルーズベルトとのトップ会談申し入れをすでに対日戦を決意していたため拒絶。戦争中は、スターリンに日本領だった南樺太、千島列島の領有を密約で認める一方で、米国内では日系人の強制収容を行った。



マシュー・ペリー  
(Matthew Calbraith Perry, 1794-1858)  
米国海軍軍人。東インド艦隊司令長官として、江戸末期の1853年に黒船4隻を率いて鎖国をしていた日本に強く開国を要求。翌年、日米和親条約を締結し約250年に及んだ日本の鎖国を終焉させた。その後、日本は欧米列強と不平等条約を締結させられ、太平洋戦争(1941-1945)までの「日米100年戦争」の幕開けとなる。



チャンドラ・ボース  
(Subhas Chandra Bose, 1897-1945)  
インドの独立運動家。日本との連携によって第二次世界大戦中にインド独立を図ろうとアジア植民地解放を目指す重光葵外相発案の大東亜会議にもインド代表として出席。事故死で悲願は達成できなかったものの意志は受け継がれ戦後インドは独立。

大英帝国からの独立を勝ち取る道を開いたのです。

日本軍の優れた軍事的技能やサムライ精神にもかかわらず、人的資源や兵器力が不足していたため、結局、日本軍は敗北しました。ハーバードで学んだ俊英な軍人で連合艦隊司令長官山本五十六もより優位な人的資源と武器を持つ連合軍を打ち負かすことは多分できないだろうと見て、いずれ日本が敗れることを知っていました。戦後、日本がサムライ精神を持ち続けるよりはむしろアメリカの命令に従って経済に特化した国家になるという安易な道を選んだのは悲しむべきことです。

**小島：**日本にはインドを侵略する意図は全くありませんでした。逆に、長年インドを植民地統治した大英帝国から同国を解放しようと努めたのです。実際に、戦争終了数年後にインドは独立を果たしました。それゆえインドは日本に感謝の念を抱き今日までずっと親日国であり続けているのです。日本は敗れはしましたが、植民地化された多くのアジア諸国を西洋の支配から解放しました。赤ん坊を出産しその直後に死亡した偉大な母親に日本がなぞらえられる所以です。

なお、反共主義の陸軍大将**ウェデマイヤー**は「ウェデマイヤー回想録」で、真珠湾攻撃は米国を第二次世界大戦に参戦させるためにルーズベルトが事前に仕組み日本を挑発して起こさせたものだと言っています。

**Shinomoto：**ウェデマイヤーは共産主義者を嫌悪していたのですが、日本軍を打ち負かすことに焦点を絞り、そのことが最後に中国共産党が国民党を打倒する決定打となりました。氏が国共合作を奨励していなかったならば、中国共産党が中国を国民党から奪取する力を得ることはなかったでしょう。氏は数年後に以前の声明を破棄することになるのですが、その時にはパンドラの箱はすでに開けられていました。**トルーマン**は自らの栄光を追い求めるだけの利己的なリーダーだったので、自分が権限を持つ立場にあることを見せつけるべく支援を保留することで国民党をさらに弱体化させました。

日本が結局はインドの独立を叶えることを意図していたということ



**アルバート・ウェデマイヤー**  
(Albert Coady Wedemeyer, 1897-1989)。  
米国陸軍大尉。チャーチルの「第二次世界大戦回想録」に匹敵するウェデマイヤー・レポート〈回想録〉を書いて、中国共産党と国民党の対立の真相を明らかにし米国が中国で犯した決定的なミスを指摘しルーズベルトの責任に言及。アメリカにおける反共活動の英雄の一人とみなされている。



**ハリー・トルーマン**  
(Harry Truman, 1884-1972)  
副大統領から病死のルーズベルトに代わって米国大統領に就任。日本の国体維持という唯一の降伏条件を受け入れず戦争を長引かせ、フーバー元大統領より道徳なき命令と批判された原爆投下を決行。朝鮮戦争では、すでにソ連が原爆を持っていたので、原爆を使用しようとしたマッカーサーを解任。

に同意しますが、インドの豊富な天然資源へのより自由なアクセスのような何らかの譲歩を求めていることも確かだと思います。結局、それが東南アジア諸国を日本がくまなく侵略したことの主な理由でした。

**小島：**インドネシアを侵略し植民地としたのはオランダでした。インド、シンガポール、香港そしてビルマを侵略し植民地にしたのは大英帝国でした。カンボジア、ベトナムを植民地として侵略したのはフランスでした。フィリピンをスペインから奪い取り植民地としたのは米国でした。当時は人種差別が横行し、白人はアジア人が自分たちの奴隷として奉仕することを当然のことと考えていました。日本は、西洋の植民地主義国からアジア諸国を解放すべく、戦時中に当該諸国の指導者を東京に招待して大東亜会議を開きました。この会議は重光葵外相が考案し東条内閣が主催したもので、チャンドラ・ボースもインド代表として参加していました。そして実際、戦後これらの国々は植民地から自国を解放することができました。日本はビルマでインドとビルマの兵士の協力を得て大英帝国と戦いましたが、それはインドの天然資源へのより自由なアクセスを求めてではなく、援蒋ルートと呼ばれる英国の中国への軍事兵站ルートを切断するためでした。

**Shinomoto：**そうでしたか。なぜ日本がインドやビルマの人々を解放しようと望んだのか本当の理由がわかりました。私は高校の世界史の授業でマッカーサー将軍が主張したように日本は原材料物資へのアクセスを得るために東南アジアを侵略したのだと教わりました。学んだことが誤解を招いたり、場合によっては誤りであったことを考えると、アメリカの歴史書に対して私はもっと批判的であるべきなのかもしれません。

**小島：**米国の高校生は日本に関する限り明らかに洗脳されていると思います。米国で教えられる世界史はある程度、捏造されていることは確かです。例えば、「XXを忘れるな！」というスローガンは米国が戦争を開始しそれを正当化する常套句です。土地を奪うためのアメリカ

- ・インディアンに対する戦いで、フィリピンを得るためのスペインとの戦



ダグラス・マッカーサー

(Douglas MacArthur, 1880-1964)  
ペリーは船で横須賀に来て日本を開国させたのに対し、マッカーサーは飛行機で厚木空港に降り立ち約6年間GHQ最高司令官として占領下の日本に君臨した。東京裁判を指揮し日本の侵略戦争を弾劾したものの、自ら朝鮮戦争を指揮して、日本の戦争が侵略でなく安全保障のためであったことを悟り米国議会で証言。

いで、そして太平洋戦争中の日本との戦いで、この決まり文句を繰り返し使いました。そして戦争の引き金となる事件は、注意深く事前に意図的に計画されていたのです。

米国がハワイを侵略した 19 世紀後半、カメハメハ王朝は明治政府に支援を求めました。しかし、日本は当時その要請に応じるに十分な強国ではなかったため米国との戦争突入を回避し、結果として、王朝は崩壊したのです。

原爆投下によって約 30 万人の日本人が犠牲になりました。このホロコーストから目を逸らすため、米国は東京裁判において南京大虐殺というフィクションを仕立て上げ日本軍がほぼ同数の中国人を殺害したと主張したと言われています。当時の南京市の全人口は約 20 万人で、大多数の市民が戦争中も戦後でさえも生存していたにも拘らずです。

**Shinomoto** : あなたが言っているのは“メイン (※Maine) を忘れるな”のことだと思います。アメリカは、アメリカ・インディアンの文化を滅ぼすに際して、フィリピンを占領するに際して、そしてその他諸々の侵略的な行動に従事するに際して、高貴さとは無縁でした。第二次世界大戦通の友人に確認した話ですが、**クリーブランド**大統領は、ハワイの女王リリウオカラニが君主としてハワイを統治する憲法上の権利の保持を求めたのに対し、それを認めどころかアメリカ軍を送り込んで彼女の政府を屈服させ、そしてハワイの天然資源と人々を搾取しました。だいぶ後になって、大統領**ビル・クリントン**が彼女の政府を引きずり下ろしたアメリカの行為に関し謝罪しましたが、それは巷でよく言われるように too little, too late (微々たるものでかつ遅すぎた) でした。

**小島** : あなたは以前南京大虐殺をある程度捏造されたものだと言いましたが、私は完全な捏造であるという立場です。アメリカの中高生が捏造された歴史的事実なるものを教えられ、その後の人生においてそれを真実として信じ続けるのは嘆かわしいことです。



スティーヴン・クリーブランド  
(Stephen Grover Cleveland, 1837-1908)。  
第22代および24代米国大統領。ハワイの米国支配を推進。ハワイ王朝から皇室と縁戚関係を結ぶなど日本にも秘密裏に救援要請があったが、明治政府は米国との対立を恐れて断念、ハワイは米国の傘下に入る。



ビル・クリントン  
(William Jefferson "Bill" Clinton, 1946-)。  
第42代米国大統領。中国寄りで、台湾の独立不支持、台湾の国連等国际機関への加盟不支持を表明。日本には貿易問題などで厳しい態度を取り円高が進む。不倫発覚でホワイトハウスに汚名を残す。

**Shinomoto**：南京大虐殺は明らかにその殆どの部分が捏造でした。しかし、よく言われるように利権は戦勝者に帰属します。歴史書の書き直しもそうです。インド人の親友に日本について尋ねたところ、温和で平和な国だと答え、あなたの見方の通り、歴史書は同じ事柄を政治的な見解に従ってまったく異なるように書けるので、歴史書にはさほど関心はないとも言っていました。

70 年以上も前に日本が中国や朝鮮に対して行ったと主張されていることは今日の問題とは無関係なのですから、これらの国々の政府や情報不足の人民がしつこく日本を困らせることを止めるよう望みます。彼らは日本を身代わりとして利用しようと試みるのではなく、自分自身の内部の問題解決に焦点を合わせるべきです。アメリカにおけるアジア系アメリカ人のように、これから何世代も後に彼らが日本と日本の人々を愛し尊敬するようになることを望みます。

## 世界文明の一つとしての日本

**小島**：サミュエル・ハンティントンは世界を 7 大文明に分類しています。すなわち、西洋、ラテン・アメリカ、儒教、イスラム、ヒンドゥー、スラブ正教会系、そして日本です。氏は、朝鮮とベトナムは儒教・中国文明に属するが日本文明はそれとは極めて異なると論じています。最近、韓国は先祖帰りして中国に急接近していますが、文明の異なる日本は決して中国と同盟を結ぶことはないでしょう。

**Shinomoto**：ハンチントンは日本を他の極東諸国と同一視しなかったのが賢明です。氏は、宗教や信仰は文明の進展において重要であると信じた英国のアーノルド・トインビーに匹敵する、と読んだことがあります。ハンティントンは、宗教、信仰、民族的な衝突は、政府とくに西洋の民主主義政府よりも文明の形成において重要であると論じています。氏は日系三世の政治学者フランシス・フクヤマ（彼の祖父は臆病にも日露戦争を避けてアメリカに逃避しました）がその著書『歴史の終わり』



サミュエル・ハンチントン

(Samuel Phillips Huntington, 1927-2008)。

米国の国際政治学者。ハーバード大学教授。アメリカ政治学会会長。代表作に「文明の衝突」。日本を中国文明とは異なる独立した世界文明のひとつとみなした。



アーノルド・トインビー

(Arnold Joseph Toynbee, 1889-1975)。

イギリスの歴史学者、文明学者。代表作に「歴史の研究」「世界と西欧」「歴史の教訓」。宗教が文明発展に欠かせないことを擁信していた。



フランシス・フクヤマ

(Francis Yoshihiro Fukuyama, 1952-)。

米国の政治学者。父親が日系二世、母親が日本人の日系三世。代表作に「歴史の終わり」。民主主義と自由主義経済が最終的に勝利し、民主政治という安定した政治体制を破壊するような戦争やクーデターはもはや生じなくなり、「歴史は終わり」とフクヤマは見なしたが、現実の世界の動きはそうならない。



の中で、「西洋の自由民主主義と自由市場資本主義は人類の社会文化的進化の終焉の兆候となりそして人類統治の最終的形態となる」と主張していることに真っ向から反論しています。ハンティントンがジョンソン、カーターという二人の大統領の政策アドバイザーであったという事実は、彼が誠実な人格者だったことを示しています。「西洋文明が世界を支配することはもはやないだろう」と氏は感じていましたが、それが現実になるにはまだ極めて長い時間が必要でしょう。

## 第二次世界大戦の真実

小島：第二次世界大戦の真実を知るために、次の二冊の本を推薦します。

### ●Charles Beard (チャールズ・ビアード)

*President Roosevelt and the Coming of the War, 1941: Appearances and Realities* (『ルーズベルトの戦争責任』)

### ●Herbert Hoover (ハーバート・フーヴァー)

*Freedom Betrayed: Herbert Hoover's Secret History of the Second World War and its Aftermath* (Hoover Institution Press Publication) (『裏切られた自由：ハーバート・フーヴァーの第二次世界大戦秘史とその余波』) (フーヴァー研究所刊)

ビアードは、ドイツ、イタリア、日本が宣戦布告や対米戦をする以前にルーズベルトが米国をどのように第二次世界大戦へと追い込んで行ったのか述べています。

フーヴァーは、ルーズベルトが日本を戦争に突入するよう挑発したと裁断しています。また原爆の使用は誤りであり、蒋介石に毛沢東との連携を強いたのも完全な失敗だったと主張しています。



リンドン・ジョンソン

(Lyndon Baines Johnson, LBJ, 1908-1973)。

第36代米国大統領。民主党ケネディ政権の副大統領で、ケネディ暗殺後、大統領に昇格し政権を引き継ぐ。ベトナム戦争に深入りするも、国内では黒人の公民権を認めるなど善政をおこなう。



ジミー・カーター

(James Earl "Jimmy" Carter, Jr., 1924-)。

第39代米国大統領。中国寄りで、1979年、共産主義国家の中国と国交樹立し、自由主義陣営の台湾（中華民国）とは断交。極秘裏に核兵器開発計画を進めていた朴正熙政権にも批判的だった。



ハーバート・フーヴァー

(Herbert Clark Hoover, 1874-1964)。

第31代米国大統領。米国を第二次世界大戦に参加させるために太平洋戦争を仕掛けたとしてルーズベルトを批判。



コーデル・ハル

(Cordell Hull, 1871-1955)。

米国の政治家。ルーズベルト政権で国務長官を務め、最後通牒と日本が判断したハルノートを提示、開戦に至る。実際ハルノートを書いたのはD・ホワイでハルはもっと穏健とされる。国際連合の父とされノーベル平和賞受賞。

**Shinomoto** : (幾日か後) 私は遂に二冊の本を読む機会を得ました。過去の私は、ルーズベルトは最も偉大な大統領の一人であり、フーヴァーは最悪の一人だと考えていましたが、アメリカの学校制度に洗脳されていたといわざるをえません。なぜ日本が極東に拡張していったのか、今はよく理解できます。マッカーサー将軍自身が認めたように、日本は天然資源に恵まれない国だったからです。合衆国は自由主義者の近衛首相が野村提督を通してアメリカとの和平を提案してきたにもかかわらず、強情にも平和への妥協の交渉を拒否しました。近衛首相は、反米の外務大臣松岡を更迭し豊田提督へ差し替えることさえ行い、ルーズベルト大統領との直接会談を提案しました。しかし、ルーズベルトは洞察力に欠け（あるいはあなたが主張するように故意に日本に戦争を挑発するという隠れた政治課題があったため）、近衛が辞任し、そしてタカ派の東条が後を引き継ぐという展開になりました。それでもまだ日本は、合衆国に対しそれなりの提案を野村提督を通して行っていました。しかし、中国、大英帝国、オーストラリアが日米交渉の妥結に公然と反対しました。ルーズベルトは（現実には国务長官**コーデル・ハル**が）日本の提案に対し少なくともそれなりの返答を与えました。恐らくルーズベルトに急かされてのことでしょうが、ハルは、自身でも日本には決して受け入れられないであろうとわかっていた馬鹿げた提案を行いました。

戦後、1946 年に開催された真珠湾問題に関する連邦議会の委員会で、証言台の陸軍長官（現国防長官）**スティムソン**は、合衆国は日本との戦争を挑発することを欲しその軍事力全てを用いて日本と戦う準備ができていた、と認めました。しかし、平和を愛好するアメリカ人（不運にも**ブッシュ**大統領（息子）は愚鈍過ぎてこれが理解できず、一方的にイラクを攻撃しました—その際、アメリカ国民は騙されてイラクが大量破壊兵器を保有していると考えさせられていたためこれを支持しました—周知のように大量破壊兵器は後に虚偽情報と判明しました—このため誇り高い黒人の国务長官**コリン・パウエル**は辞任しその後オバマの大統領選を支援しました）は日本あるいはどの外敵に対しても最初の一撃をアメリカが行うことを決して容認しないであろうと彼らは知って



**ヘンリー・スティムソン**  
(Henry Lewis Stimson, 1867-1950)。  
米国の国务長官。第二次世界大戦期における民間人出身の陸軍長官。後にルーズベルトが日本を挑発して戦争に追い込んだことを証言。



**ジョージ・ブッシュ**  
(George Bush, Jr., 1946-)。  
親子二代の米国大統領。悪の枢軸発言で、イラン、イラク、北朝鮮をテロ国家に指定し非難。9.11世界同時多発テロ事件を契機にイラク戦争を先導。フセイン大統領駆逐の功績はあったが大量破壊兵器は見つからず戦後処理も日本の時のようには上手くいかず混乱を極めた。



**コリン・パウエル**  
(Colin Luther Powell, 1937-)。  
米国の軍人（退役陸軍大將）。ババ・ブッシュ大統領の時、湾岸戦争の統合参謀本部議長として活躍。ブッシュ・ジュニア政権の時国务長官になるも、イラク戦争に反対でブッシュ大統領、チェイニー副大統領と対立、2005年に辞任。



いたので、そのための最善の方法は日本にアメリカ襲撃以外の選択肢を与えないことだと考え工夫したのです。事実、ルーズベルトの内部の人間は、“宣戦布告なき” 真珠湾襲撃の一日前に、日本がアメリカのどこかを襲撃するであろうことを知っていました。

ウェデマイヤー将軍は、軍事傍受部門がアメリカはどこかが12月6日の翌日、真珠湾の前日、に襲撃されることになっていることを知っていましたが、重要地域（太平洋中心部、フィリピン、オランダ領東インド諸島など）の軍事基地に何の警戒警報も発しなかった、と述べています。また、在ワシントンDC海軍通信部の通信防護セクション担当海軍大佐スタフォードは、独立情報源二ヶ所からあの運命の日に日本が合衆国を襲撃するであろうと聞き知っていたとハート・ボード提督の前で証言しています。最終的に東部標準時間の午前10:15にSIS（信号情報部）が「東部標準時間午後1時（ハワイ時間午前7時）に日本が合衆国に宣戦布告をするであろう」と確認しました。それは、もちろん真珠湾が爆撃された時刻でした。

原子爆弾投下に関して、フーヴァーは「トルーマンの不道德な命令であった」と書いています。日本が再三和平の意思表示をしていたというだけでなく、アメリカ史全体において前代未聞の残虐な所業でもあります。それはアメリカの良心に永遠に重くのしかかるでしょう。さらにフーヴァーはアメリカ国民が中国の**蒋介石**政権をアジアの民主主義のために戦う民主主義者であると信じ込むようにミスリードされたとも語っています。つまり、アメリカ国民は、自分たちは軍事独裁体制に対抗する兄弟のような民主主義のために戦っているのだと信じるように洗脳されたのです。実際には、蒋介石は秘密結社（Kao Ming Ting）を基にした軍事寡頭体制の軍司令官でした。中国と共に戦ったことへのルーズベルトの弁解は、各地での侵略行為の打倒でした。

真実は、それはアジアが3000年にわたって行って来た内部問題であり、また合衆国がこの内部問題に首を突っ込む必要はなく、アジア諸国は自分たちで侵略行為を拒絶すべきでした。フーヴァー自身が述べたように、アメリカはアジアの巨竜を欧州の慰めに滅ぼしたのです。



蔣 介石

《Chang Kai-shek, 1887-1975》  
中華民国初代総統。本当の敵だった  
中国共産党軍と戦わず日本軍と戦っ  
たため台湾では不評。

小島：ハルに関しては、ハル・ノートを作成したのはハル長官自身ではなく、上院議員マッカーシーの赤狩り（マッカーシズム）やヴェノナ文書でソ連のスパイだったことが暴露されたハリー・ホワイトでした。

## 宗教と政治

小島：日系アメリカ人のリーダーの多くが政治家を含めクリスチャンであると理解しています。彼らがアメリカ社会の主流の価値を選んだのは自然なことです。日本ではクリスチャンは全人口の1%（107万人）以下に過ぎませんが、安倍内閣には麻生太郎財務大臣（元首相）を含む何人かのクリスチャン閣僚がいます。外務大臣として1972年に中国と外交関係を樹立した大平正芳首相もクリスチャンでした。なぜでしょう？ 第二次大戦の後、アメリカ文化とキリスト教の教義が結合し、そのような雰囲気の下で教育を受けた人々が相次いで政界に入ったからともいわれています。

Shinomoto：安倍内閣に多くのクリスチャン閣僚がいるのは、最も著名な日系アメリカ人と共に政治家がクリスチャンであるアメリカにおける状態のようですから、驚きではありません。本質的にキリスト教は積極的に主張する宗教です。それに対し、仏教は受動性を称賛します。日本や他の極東の国々ではこの方がより良く機能するかも知れませんが、アメリカでは明確な短所になります。中国でも共産主義者による権力奪取までは著名な指導者はほとんどが孫文や蒋介石のようなクリスチャンでした。しかし、クリスチャンであることが必ずしも偉大なリーダーを意味する訳ではなく、蒋介石は第二次世界大戦中、真の敵である毛沢東傘下の共産主義者というよりむしろ日本に戦闘の焦点を合わせたため、今日では多くの台湾人に批判されています。

小島：第二次世界大戦中の政治と宗教に関してですが、日本は2600年



ハリー・デクスター・ホワイト  
(Harry Dexter White, 1892-1948)。  
米国の官僚。フランクリン・ルーズ  
ベルト政権のハルノートの草稿を書  
いた。マッカーシー上院議員によりソ  
連工作員との繋がりが指摘された。



ジョセフ・マッカーシー  
(Joseph Raymond "Joe" McCarthy, 1908-1957)  
米国共和党上院議員。朝鮮戦争当時、  
共産主義者追放運動（マッカーシズ  
ム）旋風を巻き起こした。



麻生 太郎  
(Taro Aso, 1940-)。  
副総理・財務大臣。内閣総理大臣  
(第92代)。首相当時、日本は侵略国  
家ではないと懸賞論文で主張した田  
母神俊雄空将を事実上更迭。アベノ  
ミクスでデフレ退治をした戦前の高  
橋是清大蔵大臣を目指す。クリスチャ  
ン。



大平 正芳  
(Masayoshi Ohira, 1910-1980)。  
内閣総理大臣（第68・69代）。日中  
国交回復時の田中内閣の外務大臣で  
親中派。クリスチャン。

以上続いてきた国の民族アイデンティティの存在としての天皇を護ろうとしました。**昭和天皇**は同戦争中にたまたま在位されていたのです。そもそもエンペラーという言葉が誤解を生みかねません。天皇は、中国や欧州における君主のようなものではなく、ローマ・カソリック教会の法王の如くより祭祀王に近い存在です。従って日本の歴代天皇は苦悩する民衆のために祈りを捧げてきました。今上天皇及び皇后も先の大地震の直後に東北地方の被災者を見舞われました。それゆえ、日本人は天皇を崇敬する存在としてずっと支えてきているのです。天皇なくして日本はもはや真姿の日本ではないと言っても過言ではないでしょう。

**Shinomoto**：日本文化における天皇のポジションに関しても教えてくれて有り難く思います。私は今になってようやくなぜ日本人が欧州や世界のその他の国々における君主制とは異なりそのポジションに究極の尊敬の念を抱くのか理解できました。もしも、天皇裕仁を単に日本国家の正当な元首として受け容れてきたのなら、この不必要な苦悩のすべては避けられていたでしょう。天皇が、日本においてこのように崇敬される存在だったことを私は全く知りませんでした。

## GHQ と日本国憲法

**小島**：GHQ は戦後直ぐ日本政府に対し新しい憲法の草案を作成するよう命じました。しかし、GHQ はどの草案をも認可せず、代りに GHQ の若手スタッフグループが 8 日間で書き上げた英語の憲法案を受け容れるよう日本政府に強いました。GHQ はまた日本が如何なる武装部隊（軍隊）を持つことも禁止しました。別の表現をすると、日本が二度と米国に刃向わないようすべての兵器を日本から没収したのです。

新憲法は、日本が如何なる軍隊の保持も断念することを決意し、諸国民の公正と信義に信頼して自らの生存を委ね永遠に戦争を放棄すると述べています。しかし、現実には、日本を取り巻く諸国は中国、北朝鮮、韓国そしてロシアであり、全てが反日国家と呼ばれている国々です。米軍が日本の憲法を維持すべく日本に駐留しています。米軍なくしては、



孫 文

(Sun Yat-sen, 1866-1925)。初代中華民国臨時大總統。中国国民党総理。清朝打倒で蜂起するも失敗し日本に亡命。その後、辛亥革命が起き中華民国臨時大統領に就任するも、袁世凱が勢力を伸ばし軍閥が跋扈。再度日本に亡命。台湾では国父、中国では孫中山先生と呼ばれている。



毛 沢東

(Mao Zedong, 1893-1976)。中華人民共和国の初代国家主席。蒋介石の国民党を台湾に追いやり中華人民共和国を建国。再三にわたる米国の核の恫喝に怯え、1964年東京オリンピック閉幕のとき原爆実験を成功させる。南京事件には言及なし。



昭和天皇

(Emperor Hirohito, 1901-1989)。第124代天皇。天皇は明治政府が制定した西洋の立憲君主というよりも歴史的にはローマ法王のような祭祀王に近い存在。

日本は即座にこれら反日諸国の植民地となるでしょう。米国は日本を半永久的に支配しようと意図したので、GHQ は憲法改訂を困難なものにしました。改正には国会議員 3 分の 2 以上の承認と国民投票の過半数を必要とします。

植民地の定義では外国の軍隊に守られる国もその中に入りますが、その意味では日本は戦後 67 年間ずっと米国の植民地だったわけです。安倍晋三首相と石原慎太郎日本維新の会共同代表は、米国からの真の独立を得るために GHQ が裏書きして推進した戦後体制からの離脱を主張する日本の政治家です。日本は国を自力で守るべく自国軍の強化が必要です。戦前の日本は中国及びロシアを監視する番犬でしたが、戦後は、日本に代わり米国が番犬になりました。現在、アジアには日本にもっと強い国になって中国の覇権主義や圧政にストップをかけてもらいたいと願っている国々や民族が少なくありません。財政難の米国にとっても、日米同盟を堅持しつつも日本に番犬役を返上して行ったほうが有益でしょう。日本も自らの世界史的使命をもっと自覚する必要があります。

**Shinomoto**：日本における米軍の状況を明確にしてくれて感謝します。共産党政府は、日本軍が戦争中に中国及び中国人民に対し数多くの残虐行為を犯したと考えさせようと、その人民を明らかに洗脳しました。実際は、日本は長年にわたって財政援助を中国に提供しましたが、中国の人民に対してこの事実は明らかに隠蔽されています。

日本は、極東地域の安全保障上の重要な一員となることで、アメリカの競合者としてのイメージを和らげなければならないでしょう。それ故に日本は、アメリカ政府が同地域での軍事基地維持に感じている重圧を軽減すべく強力な軍隊を持つことが必要なのです。合衆国の軍隊が同地域から引き揚げると攻撃的な中国がその状況を利用することになることを知っているので、アメリカ側は楽観できません。安倍首相とその内閣は日本の軍隊構築の小さな一歩であり、うまく行けば、日本自体の権益だけでなく合衆国の権益も守ることができるようになるでしょう。



石原 慎太郎

(Shintaro Ishihara, 1932-)

2012年、東京都知事を辞任して太陽の党代表になり、現在は橋本徹大阪市長とともに日本維新の会共同代表。憲法無効論の立場から即時放棄を主張。都議会ではそのように回答。A級戦犯は認めるも靖国には参拝し続ける。党首では唯一の核武装論者。

小島：A級戦犯として有罪判決を受けた東条英機元首相の孫娘、東条由布子氏が今年2月16日に73歳で他界しました。彼女は、太平洋戦争の原因追究、東京裁判そして韓国人慰安婦に関する捏造史実に対する戦いに一身を捧げました。

東条英機は他の6人の戦犯と一緒に靖国神社に祀られています。日本の観点からは彼等は犯罪者ではありません。日本は中国や韓国からの抗議を恐れ、ここずっと、小泉純一郎首相以外の首相は靖国神社参拝を差し控えてきました。安倍首相は、小泉首相の辞任を受けて首相に選出された6年前に同神社を参拝しなかったことを後悔していると記者会見で語っており、今年は参拝する可能性が高いと見えています。

Shinomoto：私はこの勇気ある女性のことを知りませんでした。また、安倍氏は首相としての最初の任期中、政治的過ぎました。氏はそれ故に多くのスキャンダルに苦しみ、辞任せざるを得ませんでした。今回は、氏が靖国神社参拝を含め自分の言葉に忠実であってそして日本の名誉のために闘うことを希望します。

落選後に返り咲き再選を果たした唯一のアメリカ大統領はクリーブランドです。彼は一般投票に勝利しながら大統領選挙人団（今日でも使われる異論の多い投票制度）で敗れた僅か4人の大統領候補の一人です。この出来事が最後に起きたのはゴアがブッシュ大統領（息子）に敗れた2000年です。ゴアは正義感が強すぎて、大統領として大きな成功を収めながらもホワイトハウスの実習生と認されない関係を結び大統領職に恥辱をもたらしたクリントンと関係を断とうとしました。

いずれにしても、私の日系アメリカ人の友人や親族は、私から受け取る第二次世界大戦における日本の本当の役割についてのメッセージに大変喜んでいきます。彼らは、日本の軍国主義的な歴史に関して感じている恥の意識（マイク・ホンダは根拠もなく主張された韓国人従軍慰安婦たちを支援し日本軍を非難する決議文の発起人になることでこの罪意識から脱却できると考えたのです）が大多数の日系アメリカ人が共有することの一つであり、そして「日系アメリカ人かどうか見分ける101の独自の方法」“The Original 101 Ways to Tell if You’re Japanese



東条 由起子

(Yukiko Tojo, 1939-2013)  
東条英機の孫娘。南京事件や従軍慰安婦の捏造に反対。首相の靖国神社参拝支持。



東条 英機

(Hideki Tojo, 1884-1948)  
陸軍大将、首相。関東軍参謀長時代、満州国でユダヤ人の救出に尽力。昭和天皇より日米開戦回避を命ぜられたが失敗。東京裁判で天皇を擁護し自らに戦争犯罪はないが敗戦責任はあると主張。A級戦犯として絞首刑。



小泉 純一郎

(Junichiro Koizumi, 1942-)。  
内閣総理大臣（第87・88・89代）。首相在任中の5年間、中国の外圧を撥ね退けて靖国参拝を続け国民の熱狂的な支持を受けた。靖国神社は日本の侵略戦争を認めていないが小泉氏は認めて二度とそうしないために参拝していると釈明。



American”（もともとはロスアンゼルスで発行された日系アメリカ人の新聞（羅府新報）に書かれ出版された）のリストに含まれているべきであった、と私に語りました。それは、日系アメリカ人が経験したことへの何らかの洞察をあなたに与えるかもしれません。

小島：101の項目の一つに、「真珠湾記念日には自宅に留まる」と書かれています。あなたは今、歴史的な洗脳から自由になったのですから、12月8日の真珠湾記念日に自宅に留まらねばならない理由はありません。

ところで、杉原千畝を知っていますか？ クリスチャンで日本の外交官、戦前及び戦時中に多くのユダヤ人をナチのドイツから救出した人物です。又、クリスチャンで「武士道」の著者の新渡戸稲造についてはどうですか？

Shinomoto：杉原と新渡戸のことは聞いたことがありませんでした。素晴らしい人たちのことを教えてくれて感謝します。私は新渡戸のようなクエーカー教徒が創立した会社（PQ Corporation）で働いていました。ニクソンも、両親がペンシルヴァニアからカリフォルニアへ移住して以来のクエーカー教徒です。クエーカー教徒は神への献身と簡素なライフスタイルで知られます。クエーカー教徒はまた友人であることで知られていますから、PQ社の通信文は“親愛なる友よ”という挨拶で始まるのが常でした。

ところで、12月8日は不名誉な演説がなされたルーズベルトにとって知られた日で、真珠湾記念日は12月7日です。皮肉にもルーズベルトは“不名誉に残る一日”として前日に言及したのです。ルーズベルトは日本に合衆国を一方的に襲撃させ、密かにほくそ笑んでいたのですから、これらの言葉は皮肉です。

私は、第二次世界大戦での日本の役割に関するあなたの意見を



杉原 千畝

（Chiune Sugihara, 1900-1986）。外交官。ナチス・ドイツの迫害によりポーランドなど欧州各地から逃れてきたユダヤ人たちの窮状に同情。外務省の訓命に反して大量のビザを発給し、約6,000人の避難民を救助。日本のシンドーラーに例えられる。クリスチャン。



新渡戸 稲造

（Inazo Nitobe, 1862-1933）。農学者・教育者。国際連盟事務次長。拓殖大学長。著書 Bushido: The Soul of Japan（『武士道』）は世界的なロングセラー。五千円券の肖像にもなった。クリスチャン。



リチャード・ニクソン

（Richard Milhous Nixon, 1913-1994）。第37代米国大統領。朝鮮戦争中、マッカーシー旋風を巻き起こす。1963年よりアイゼンハワー政権で副大統領。ウォーターゲート事件で失職。クエーカー。

尊重します。アメリカでは、「日本軍は侵略者で、それゆえアメリカは日本との戦争に進んだ」と教えられました。101 の項目の一つ、49 番目は、「日本の軍国主義的歴史を恥じる」とあります。私は今やその項目に横線を引き我がリストから抹消できます。

（肖像画担当：小島 茂）